長野大学紀要　第15巻第1号　143－149頁　1993

〈報告〉

河北大学講演（1992年9月18日）『日本の女性と男性、その今と未来』

A Lecture at the Hebei University (September 18, 1992) "Women and Men in Japan, Their Present and Future"

圓　増　治　之
ENZO Haruyuki

日中国交20周年にあたる昨年5月20日に中国の河北大学とわが長野大学との間で学術交流協定が締結されたが、この協定の細部の詰めの協議、および復旦大学との学術交流協定の事前折衝のために、昨年9月14日から25日まで小川勝一学部長、安井幸次教授および私の3名で訪華してきた。17日河北大学との学術交流の内容・条件についての折衝を李河北大学学長と北京の華都飯店で行った後、保定に移動し18、19の両日河北大学で図書館をはじめとする施設の見学、教員・学生との交流、それに小川学部長『現代日本の教育問題』、安井教授『日本の経済成長と家族・地域社会の変動』、私『日本の女性と男性、その今と未来』と題してそれぞれ講演を行った。

私の講演は18日午後2時30分から昨年落成したばかりの図書館報告庁で行い、参加者約140名を数えた。私の講演そのものは通訳を交えても1時間弱のものにすぎなかったが、講演後学生たちからさまざまの質問が活発に発せられ、質疑応答にもやはり1時間程度の時間がかかった。それらの質問からは河北大学の学生たちの向学心の高さとともに日本に対する関心の高さも窺われた。

社会主義の体制のなかで「収入労働」、「賃労働」に対し「家事労働」という図式がどの程度理解されるものか心配であったが、「家事労働」の評価は「賃金」によって表現されず、精々のところ「愛の言葉」によるしかない、といった説明で理解されたようであった。このあたり、何処も同じといったところであろうか。

事前には私の講演の草稿は中国語になりにくいのではという懸念があったが、幸い有能な通訳者を得て、大方の理解が得られた。通訳をしていただいた河北大学外文系日語教研室の李芳先生に謝意を表しておかなければならない。

日本の女性と男性、その今と未来
―「競争社会」から「脱競争社会」へ―

まず寓話風の話をお聞きください。

昔々あるところにひとりのおじいさんが嫁と一緒にひっそりと暮らしていました。息子は戦争に連れていかれたままいつまでたっても帰ってこなかったのです。ある雪の夜おそく、嫁が寝たあともおじいさんがひとりせっせと夜なべ仕事をしていると、トントンと戸を叩く者があります。おじ

日本的女性与男性，其现状与未来
从「竞争社会」转入「脱竞争社会」

首先，请听一个寓言故事：

以前，有位老人与儿媳一起过着平静的日子。他的儿子去打仗再也没有回来。一个雪夜，媳妇睡下之后，老人仍在不停地干活。这时听见敲门声，老人开门一看，一位长着长々的白胡子的老头，浑身是雪站在门外。白胡子老头为难地请求说，出门走到半路，遇上大雪，实在走不动了，请借宿一晚。

いさんが戸を開けると長い白い髭を生やした老人が雪にまみれて寒そうに立っていました。その白い髭の老人は、旅の途中なのだが雪に降られて難渋している今夜一晩泊めてもらえないかと、いかにも困った風に頼むのでした。おじいさんは「それはお困りでしょう。さあどうぞどうぞ」と、快く家の中に招じいれ、仕事が終われば食べようと楽しみにとっておいた自分の雑炊を温めて振舞い、暖かい寝床を用意してあげました。

さて、つぎの朝早くまだ嫁は寝ているうちにおじいさんは起き出して朝食の用意をしていると、そこへ昨夜の白い髭の老人がすでに旅支度を整えてやってきました。朝食を勧めるおじいさんに白い髭の老人は、「それはどうもご親切に。しかし先を急ぐもんでこれで失礼いたします」と断わり、「ところで昨夜は大層お世話になりました。そのお礼にこの種を差し上げましょう」と一粒の種を差しだしました。遠慮するおじいさんの手にその種を無理やり握らせるとこう言いました。「実はこの種は魔法の種で、これを一粒食べると一年間何も食べなくても生きられるのですよ。さあどうぞ」。そう言い残すと西の山指してすたすた歩いていきました。その早いことといったら、後ろ姿を見送るおじいさんはまるで仙人のようだと思いました。

（ここで問題。その種をおじいさんはどうしたでしょうか。食べたでしょうか。いいえ。食べてしまえば、それでおしまいです。）

春になるのを待って、その種を畑に植えました。やがて芽が出、おじいさんの丹精込めた世話によってすくすく育ち、秋には大きな丸い実が二つ成りました。割るとなかにそれぞれ一粒ずつ種が入っていました。さておじいさんはそのたねを一粒食べて一粒植えるというようにしたでしょうか。いいえ、それでは毎年同じことの繰り返しになり増えていきません。食べるのはもう一年我慢。次の秋、種が四粒になったところではじめておじいさんは一粒食べ、残りの三粒を次の春に蒔きました。次の年の秋、種が六粒になるとおじいさんは嫁にも一粒食べさせてあげ、残りの四粒を次の春にまた蒔きました。以後毎年毎年おじいさんと嫁は一粒ずつ食べ残りを蒔いていきました。このようにしていくと、最初の年から10年もすると種は百粒を越えました。

老人说："您吃苦了，快请进来吧。"说着，高兴地把老头让进屋里，又将煮熟而预备干完活再吃的菜粥热好请老头吃，还铺好了暖乎々的被窝。

第二天早上，媳妇还没起床，老人就已先起来做好了早饭。这时，昨天夜里的白胡子老头已经收拾停当要上路了。老人劝他吃过早饭再走，可他推辞说："感谢您的好意，我还要赶路，这就告辞了。"又拿出一粒种子说："昨晚承蒙关照了。把这粒种子送给您作为谢礼吧。"说着把这粒种子强塞到老人手里，"这是一粒魔力种，吃下一粒，一年管饱，请收下吧。"说完，急匆匆向西边的山走去。老人目送他的背影，矫健步履宛若神仙一般。

（这里有个问题：老人怎样处置了这粒种子？吃了吗？没有。如果吃掉了，就没有后话了。）

待到春天，将种籽种到地里，很快发了芽，在老人精心照顾下茁壮成长。秋天长成二棵又大又园的果实。打开里边各有一粒种子。老人是否将它们吃一粒种一粒呢？不是。如果那样每年总是重复同样的结果而不会有所增加的。老人又忍耐一年没有吃。到下一个秋天收获了四粒种子时，老人吃了一粒，将剩余3粒在又一个春季时种了下去。秋天，收获六粒，老人让媳妇也吃了一粒，剩下的在下一个春季种下去。以后每年老人和媳妇各吃一粒，将余下的种在地里。这样下来第十年就有了一百多粒种子。

そこで、おじいさんはそのうちの五十粒の種を炮烙に入れて火にかけました。すると、茶色をしていた種は、よく煎ると、いい香りがして美しい赤い色に変わりました。それをもっておじいさんは町に行き、賑やかな通りに店を出し、大きな声で「一粒食べれば一年間他に何も食べなくても済む魔法の種だよ。さあさあ、買ったり買ったり」と行き交う人々に呼びかけました。たちまち人が集まり、おじいさんの種はすぐに売り切れました。

于是，老人取出其中的50粒种子，放入锅内炒熟了。只见原来褐茶色的种子炒熟后，教发出香味，变成了美丽的红色。老人拿着它们进城去，在热闹的大路边摆摊，冲过往行人大声叫卖："魔力种！魔力种！吃一粒，一年管饱。快来买呵！"顿时，人们蜂涌而至，不一会老人的种子就卖完了。

それでは、問題です。なぜおじいさんは売りに行く前に種を煎ったのでしょうか。

きれいな赤い色だとよく売れるからでしょうか。それとも、煎った方が生のままより保存が効くからでしょうか。あるいは、煎ると香りがよくなるから、おいしくなるから、でしょうか。

那么我要问，为什么老人在卖种子之前要炒熟它？

是红颜色美丽而好卖？还是炒熟后利于保存？或者因为炒熟的有香味，好吃吗？

いいえ、そのいずれも的をきちっと射たものではありません。ある人があるパーティの席でアメリカ人に質問したところ、いま上に挙げたような答えが返ってきたということです。日本人でも女性に聞くと、同じ様な答えが返ってきます。私は長野大学の他にも看護学校でも講義をしているのですが、そこの学生（すべて女性です）に聞くと、やはり同様の答えが返ってきました。しかし、長野大学の男子学生に質問したら、すぐさま正鵠を射た答えが返ってきました。長野大学の学生に限らず、一般に日本の男性には正解を答えることができる人は多いようです。

不对，这些回答都未切中要害。有人曾在一次晚会上向美国人提出这个问题，得到的是上述答复。即便日本人如果是问女性，也给以同样的答复。除长野大学，我还在其它学校，如护士学校讲课，问那里的学生(全是女生)。仍然是同样答复。但是，问到长野大学的男生时，立即得到正确答案。不限于长野大学的学生，一般说来日本男性中多数人能够正确回答。

それでは正解を言いましょう。それは、蒔いても発芽しないようにするためです。もらった種をすぐさま食べず、我慢して蒔いて育てて殖やす。これが「農業」というものです。農業の開始とともに人類はその日暮しの生活から抜け出しました。さらにもう一年種が四粒になるまで我慢することによって「資本」の蓄積がはじまります。これは経済の発展の極めて初歩的な原則です。そして、できれば市場の独占を図る、場合によっては「謀る」、これは「競争社会」のなかで生活するものにとってきわめて原則的な志向です。如何に、見知らぬ老人をもてなし、少し横着な嫁にも食べさせてあげるほど親切な（日本には「秋茄は嫁に食わすな」という意地悪な諺もありますが・・・）おじいさんも、競争社会の冷徹な原則的な志向性は冷徹に貫いていきます。

正确答案是；为了使种子不再能发芽。不马上吃掉种子，耐着性子种下去，使其生长繁殖。这就是所谓的"农业"。开始农业的同时，人类就从当日劳作当日消费的生活中解放出来了。又耐着性子等了一年，直到有了四粒种子，"资本"的积累开始了。这是经济发展的极其基本的原则。之后，如有可能，则「打算」或「图谋」垄断市场。这对于"竞争社会"中的生活者来说是极为根本的动机。无论那位老人如何热情招待素不相识的老头，还给有点懒惰的媳妇吃魔力种，他也要冷漠地贯彻竞争社会的铁的原则。

そして、おじいさんのこの志向性を日本の男性たちがいとも軽々と見破ることからも、如何に彼らが厳しい競争社会に投げ込まれ、過酷な競争を強いられているかを窺わせています。その点、それを見破ることのできないアメリカ人には日本人に比べて甘いところがあるのかもしれません。そして、余談ながら、そのことがアメリカの国際競争力の低下につながっているといえるのかもしれません。

日本的男人们很容易地看透老人的动机。从这一点我们也可窥见他们是怎样地被投入严酷的竞争社会并被迫进行着过于残酷的竞争。看不破这点的美国人与日本人相比，或许是竞争不那么残酷吧。说句多余的话，这与美国国际竞争力的下降或许不无关系。

日本では俗に「熟年自殺」と呼ばれ、40代50代の自殺が多いことが問題になっています。この世の自殺者は毎年全自殺者の約40%を占めているが、とくにこの世代では女性に比べ男性の割合が極めて高いのが特徴的である。少年時代からすでに受験戦争に巻き込まれ、その後も競争社会を仕事一筋に必死に生き抜いてきた人間（男性）が、熟年に達して、自分の能力や将来の限界がはっきり見えてきた時、あるいは仕事の上で挫折した場合、仕事中心の価値観しかもたない彼は生きる目標をまったく失って自殺へと走るケースが多いといわれています。このように、日本の競争社会は、もともと「天孫民族」ならぬ「テンション民族」といわれる日本人を極めて高いテンションのなかで生活するよう強いています。

日本四、五十岁的人中，自杀者较多，俗称“成熟自杀”。这类自杀者约占每年全部自杀者的40%，尤其男性的比率又大々高于女性，成为其特征。据说多数情况是这些男性从少年时代就已卷入考试战争，之后又只为工作而拼死挣扎于竞争社会之中。当他们在达到四、五十岁，看清了自己的能力及将来的局限时；或在工作中受挫时，曾经只把一心工作当作唯一价值观的他（或他们）则会完全失去生存的目的，而导致自杀。日本的竞争社会就是如此逼迫着人称「紧张民族」而非「天孙民族」的日本人生活在高度紧张之中。

ところで、「自由、平等、博愛」を掲げた1789年のフランス革命以来、人類の歴史は曲がりなりにも「自由」あるいは「平等」といった理念を目指して進むようになりました。その意味でフランス革命は単にフランスにとってのみならず、人類の歴史にとっても革命的でありました。もっとも、「自由」と「平等」というイデーは「自由」を追求すれば不平等が生ずるし、「平等」を実現しようとすれば自由を規制せざるをえないというように、両者はなかなか両立し難く、むしろ互いに対立する側面があり、イデオロギー的立場の相違によってどちらのイデーを重視するかは歴史的に異なってきました。しかるにいまや、「競争社会」においては、「自由」の原則も「平等」の原則も競争の原理に解消しようとしています。「自由」は競争の自由に矮小化されたり、競争の原理があたかも平等の原理であるかのように主張されたりします。

自一七八九年法国大革命提出“自由、平等、博爱”以来，人类历史就朝着“自由”或是“平等”的目标曲々折々地前进了。就此意义来说，法国大革命不只是对法兰西，也是人类历史上的一场大革命。然而，“自由”与“平等”的观念，往々难以两立，有时勿宁说是相互对立的：若求“自由”就会产生不平等；而欲实现“平等”，则不得不限制自由。而重视哪一个观念，由于意识形态上的立场不同，形成了历史上的不同结局。但是，在如今的“竞争社会”里，“自由”的原则与“平等”的原则都将消失于竞争的原理。“自由”被缩小成为竞争的自由；竞争的原理俨然平等之原理一般得到倡导。

では、この激化する「競争社会」のなかで女性の生き方はいったいどのように変貌していくので

那么，在日益激化的“竞争社会”中，女性的生存方式究意会怎样变化呢？

しょうか。

ますます厳しさを増す「競争社会」化の動向は、いままでその圏外にあった女性（だからこそ、上の問題に正しく答えられる女性は極めて少なかったのですが・・・）をもいまやそのうちへと巻き込みつつあります。1986年４月、日本では「男女雇用機会均等法」という法律が施行されました。この法律は企業に対して、男女間での、①募集・採用の機会均等、②配置・昇進の均等な取り扱い、③定年・退職・解雇の均等な取り扱い、等を求めるものであります。この法律は一見「男女平等」を促すものであるかのようにみえます。しかし、果してそうでしょうか。いいえ、女性を、女性の一部を男性の方へ、競争社会のうちへ、巻き込んでいくことを促すに過ぎません。真の「男女平等」とは女性の男性化、男性的な「競争社会」への女性の同調を意味するのではないはずです。

日益严酷的“竞争社会”化的动向是迄今为止置身其外的女性（正因为如此，能正确回答上述提问的女性极少。）也正被卷入其中。一九八六年四月日本实施了「男女雇用机会均等法」。这个法律要求企业在男女之间做到：①招工、录用机会均等；②分配工作、晋升职务要平等对待；③退休、退职、解雇要平等对待，等々。这个法律看上去似乎是要促进“男女平等”的。可是，果真如此吗？否。不过是促使女性、或部分女性卷入男性之中，卷入竞争社会之中。真正的“男女平等”不应意味着女性之男性化，或女性与男人式的“竞争社会”同步。

女性の経済的自立の進むなか、すでに1970年代から結婚しないでシングルでいる者が増加してきています。1965年の男性未婚率は25～29歳45.7%、30～34歳11.1%、女性20～24歳68.1%、25～29歳19.0%でありましたが、1980年の男性未婚率は25～29歳55.1%、30～34歳21.5%、女性20～24歳77.7%、25～29歳24.0%とそれぞれ増加しました。総理府の『女性に関する世論調査』によると、「一人立ちできれば、あえて結婚しなくてもよい」と考える女性が1972年13.1%から1987年24.3%と増加しています。人口統計では、子供を産む可能性が極端に少ない五十歳で未婚の女性は子孫を残さないものとみなし、五十歳の未婚率を男女とも生涯未婚率と呼びますが、1980年の生涯未婚率の全国平均は男性2.6%、女性4.4%だったのですが、1990年は男性5.6%、女性4.3%と男性は倍増しています。特に東京では男性の生涯未婚率は10.5%と、10人に１人は五十歳になっても「結婚しない男性」ということになります。

随着女性走向经济自立，不结婚的单身生活者已从七十年代起有所增加。一九六五年的男性未婚率：25-29岁的是45.7%，30-34岁是11.1%，女性20-24岁是68.1%、25-29岁是19.0%。1980年时，男性未婚率25-29岁是55.1%、30-34岁是21.5%；女性20-24岁是77.7%、25-29岁是24.0%，分别有所增加。据总理府「关于女性的与论调查」得知，认为“如果能够自立，不结婚也行”的女性，从1972年的13.1%。增至1987年的24.3%。人口统计中，一般将极少可能生育的五十岁的未婚女性看作无子孙者；将五十岁的未婚率男女同称为终生未婚率。1980年的终生未婚率全国平均为男性2.6%、女性4.4%；而1990年男性增加一倍，为5.6%、女性是4.3%。尤其是东京，男性的终生未婚率为10.5%，每10人中就有一人成为五十岁也“不结婚的男性”。

シングル傾向と平行して出生率も低下し続けています。実際に結婚した夫婦の子供予定数は以前から２人台で安定しているのですが、１人の女性が生涯に産むであろう子供数を推計した合計特殊出生率は1989年1.57人、1991年には1.53人にまで低下しています。特に東京では1.21人にまで落ち込んでいます。いまだかつてどの先進工業国も経

与单身现象并行的是出生率下降。实际上已婚夫妇的子女予定数过去一直稳定在２人以上，不足三人的水平。据已推定的１位女性终生可能生育的子女数的合计特殊生育率来看，1989年降至1.57人，到1991年甚至降至1.53人。特别是东京竟跌落至1.21人，形成了目前的日本，正以任何一个先进工业国家前所未有的速度，转向「高龄化社会」的状况。

験したことのないスピードで日本では「高齢化社会」に移行していくことになります。

「男は外回り、女は内回り」という従来からの伝統的な性による分業システムのなかでは、高齢者の介護は炊事洗濯といった狭義の「家事労働」や育児・教育とともに主婦の典型的な仕事とされてきました。女性が今挙げたような「家事労働」によって家庭を守ればこそ、男性は安んじて外で「競争社会」に参加し、賃労働に打ち込むことができ、それによって「競争社会」の競争はより一層熾烈さを増してきました。ところでこんにち家庭電気製品によって、あるいはまたコンビニエンスストアなどができて、炊事洗濯掃除などの家事労働は著しく軽減されてきました。そのことが女性の社会的労働への進出を促すことになりましたし、また独身男性がぐんと生活し易くもしてきました。その一方で、高齢化社会の到来で、高齢者の介護という「家事労働」は主婦ひとりでは担えきれない重い労働として主婦の肩に伸しかかってきています。夫婦ともに、男性と女性が共に担っていくべき労働です。

おなじ「家事労働」でも子育てはひろく自然界で様々の動物がやっていることですが、子が親の世話をする、つまり高齢者の介護といった活動はひとり人間のみが行っている活動です。そして、自然の営みではなく、人間のみが行う営みを「文化」と呼ぶなら、高齢者の介護こそまさに文化の営みに他なりません。従って、ある社会が高齢者をどの様に介護していくかは、その社会がどのような文化を創造していくかという問題です。時は今、「競争社会」から、男女共に手を携えて新しい文化を創造していく「共創社会」への転換を求めています。

由“男主外、女主内”这种传统的性别观念所形成的分工体系中，照顾老年人与做饭、洗衣这种狭义的“家务劳动”和生儿育女一起，被当作主妇的主要工作。只有女性通过这类“家务劳动”来维护好家庭，男子才能安心在外投身“竞争社会”，热衷于为挣工资而劳动。由此，进一步加剧了“竞争社会”中的竞争现象。但是如今有了家用电器，又减轻。这既促进了女性参与社会性劳动，又使单身男子生活更容易、方便了。另一方面，由于“高龄化社会”的到来，照顾老人这种“家务劳动”已成为主妇一人难以承担的重劳动压在了主妇的肩头，而这本该是夫妻共同，即男女共同承担的劳动。

同是“家务劳动”，生儿育女是自然界各类动物普遍从事的工作。而子女照顾父母，即照顾老人这项工作却是只有人类才进行的工作。如果将不是自然的，而是只有人类才进行的活动称作“文化”的话，那么，照顾老人恰々是文化的活动而不是其他。因此，一个社会将如何照顾老人，就是那个社会将创造什么文化的问题。时代要求我们从“竞争社会”转向男女共同携手创建新文化的“共创社会”。

—完—

李芳翻译

1992．9．19

〔付　記〕

21世紀に向けて国際化というメガトレンドのなかでわが長野大学も昨年河北大学、および復旦大学の日本研究中心とそれぞれ学術交流協定を結びましたが、その締結にあたって特に力を尽くされたのが、この度定年退職をされることになりました菅沼正久教授でした。顧みますと、両校との学術交流協定が話題にのぼったのが、一昨年3月に菅沼先生をはじめとする長野大学の5名の教員が

両校を訪問した時のことでした。以来協定調印までの道のりは比較的順調であったように思われます。それというのもそれまでに菅沼先生個人が長年に渡って培われてきた両校との人脈があったればこそと存じます。先生のこのご努力に対して報いるのは、なによりも両校との共同研究を稔りあるものにすることであると考え、私としては銘じて研究活動に邁進していきたいと思っております。

（えんぞう はるゆき　教授）

（1993．2．1　受理）